

大腸癌研究会プロジェクト研究  
『穿孔性大腸癌の治療成績の研究』  
第1回会議録

日時:2023年1月26日(木) 10:30-11:00

会場:浜松町コンベンションホール5F 大ホール B

出席者:(五十音順・敬称略)

委員長:山本聖一郎

委員:石田 秀行、稲田 涼、井上 透、川合 一茂、佐村 博範、須並 英二、諏訪 宏和、廣川 高久、本郷 久美子、山岸 茂

オブザーバー:安達 智洋、石戸 圭之輔、江本 成伸、鏡 哲、金城 達也、高村 卓志、坂本 一博、坂本 義之、杉本 起一、高島 順平、中島 晋、幡野 哲、藤田 公彦、虫明 寛行、矢野 琢也、吉満 政義

事務局:茅野 新、藤森 まや

<会議内容>

- 1) 委員長 山本聖一郎より、本研究の実施概要を説明した。
  - 長期予後を検証するための比較対象を設定するかどうかは、まず本研究の対象(穿孔性大腸癌)に関しての cohort study を行った後に検討予定とする。
  - 周術期の救命率(早期予後)と癌に関しての長期予後の両方に関して調査を行うが、前者より後者に重きを置いてのデータ集積を予定したい。
  - 本日の協議を踏まえてプロトコル作成を開始し、次回の大腸癌研究会までに、中央一括審査として東海大学での IRB 審議後、大腸癌研究会倫理審査の承認を目指す予定である。
- 2) 出席者より
  - 現行の大腸癌穿孔研究の症例数について
    - ⇒ 現行の大腸癌穿孔研究では数百まで、多くは100例程度。予定症例数は2500例としているが少なくとも1000例は目指したい。NCDのデータは質が担保されておらず、情報にも不足がある。
  - 大腸癌全国登録を活用してはどうか
    - ⇒ 東海大学は現時点では全国登録に参加していない。プロジェクト研究であればデータの利用は可能ではないかとのこと、今後、本部に確認する。
- 3) 調査項目について  
委員、オブザーバーから意見があった。今後、実施概要、調査項目についてさらに精査し決定する。メール審議も活用し、委員の先生方のご意見を反映させる予定である。

#### 4) 本研究の対象に関して

会議中にも指摘があり、会議後にも何人かの先生と相談の結果、穿孔例のみでなく膿瘍症例もデータ集積を予定する。その場合、いくつかの治療方針が考えられ、症例によって治療方針は異なるため、穿孔例とは異なる評価項目が必要になると考えられる。

一方、化学療法中の穿孔・膿瘍形成症例や、ステント関連での穿孔・膿瘍形成症例の集積についての提案については、興味ある対象ではあるが、これらの症例は病態が異なるため今回はデータ集積対象から除外したいと考えている。

以上